府立茨木西高等学校
校長　　森脇　正浩

令和８年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

生徒の個性を伸ばし、豊かな人間性を育み、志を持って不確実な時代を切り拓く力を育てる学校

～　「茨西 PRIDE」のもと、茨西につながるすべての人が「TEAM 茨西」として、生徒それぞれの「志をカタチに」する　～

【生徒に育みたい力】　◇ 確かな学力を基に、高い志を持ち、グローバル社会を生きる力
◇ 生徒が自己肯定感を持ち、社会人として自律できる力
◇ 自分の周りの人、地域、世界とつながる力
【教職員に求める力】　◇ 同僚性を高めチームとして互いに協調し、真摯に生徒に向き合う力

２　中期的目標

１．「確かな学力」の育成
（１）生徒の学習支援の強化
ア 授業規律の一層の徹底
イ 学習支援体制の構築と電子黒板の有効利用
ウ 生徒１人１台の学習端末の効果的な活用
（２）グローバル人材の育成
ア 英語４技能習得にむけた教科の枠を超えた教育活動の推進
（３）「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を育むための授業力向上
ア 授業評価の PDCA サイクルによる授業改善と教員相互が切磋琢磨できる校内環境づくり
イ 主体的・対話的で深い学び及び能動的授業の推進
※　保護者向け学校教育自己診断の、授業のわかりやすさに係る肯定回答率、令和 10 年度 70%以上を維持する。（R５：60%・R６：66%・R７：76%）
※　教職員向け学校教育自己診断の、「主体的・対話的で深い学び」に取組む教職員の割合、令和 10 年度 95%以上をめざす。
（「生徒の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法を行っている」R５：89%・R６：92%・R７：85%）

２．志高く「社会を切り拓く力」の育成　　▷「志をカタチに」
（１）生徒の将来を見据えたキャリアサポート
ア 全方位の基礎学力調査による、早期の生徒・保護者の進路意識の醸成
イ 卒業生による分野別説明会等の実施によるキャリア意識の涵養
※　第３学年４月の進路希望調査の実現率、令和 10 年度 90%以上を維持する。（R５：90%・R６：85%・R７：93%）
ウ 希望進路の実現
※　第３学年卒業時の進路満足度、令和 10 年度 90%以上をめざす。（R５：86%・R６:85%・R７：89%）
※　令和 10 年度までに、産近甲龍大和大合格者数 30 名以上をめざす。（R５：９名・R６:６名・R７：13 名）

３．自己肯定感を持ち、社会人として「自律する力」を育む　　▷「茨西 PRIDE」の涵養
（１）自律を促す教育活動の展開
ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上
※　遅刻総数、令和 10 年度 2,200 人以下をめざす。（R５：2,176 人・R６：3,561 人・R７：3,782 人）
（２）自己肯定感を育む「安全安心な学校づくり」
ア 人権道徳教育委員会を核として様々な人権課題に取り組み豊かな人権感覚を養うと共に、道徳教育の推進を図る。
イ 教育相談委員会を核とした教育相談活動及び支援教育活動の活性化
ウ 交通安全教育や防災・防犯教育を通した危機管理能力の向上と共助に係わる意識の涵養
※　生徒・保護者向け学校教育自己診断「命の大切さ・豊かな心・人権感覚の醸成」に係る質問の肯定回答率、令和 10 年度 90%以上をめざす。
（生徒・保護者の平均 R５：81%・R６：89%・R７：80%）

４．自分の周りの人、地域、世界と「つながる力」の育成　　▷「TEAM 茨西」の形成
（１）HR 活動・生徒会活動・部活動や国際交流行事等を通して「つながる力」を育てる
ア HR 活動・生徒会活動及び部活動の活性化
イ グローバル社会を生きる力を育む国際交流事業等の維持及び推進
※　部活動への１年次当初の加入率、令和 10 年度 75%以上をめざす。（R５：61%・R６：65%・R７：67%）
※　生徒の行事に係わる学校教育自己診断の肯定回答率、令和 10 年度 90%以上を維持する。（R５：85%・R６：87%・R７：92%）
（２）中高連携の推進と地域連携等の強化
ア 中高連絡会・地域交流協議会等により地域連携を強化し、地域のボランティア活動を通じ社会貢献を推進する。
イ 卒業生・保護者・地域の教育に係る人材等を発掘し協力体制を構築する。
（３）家庭との連携及び PTA 活動の活性化
ア 家庭連絡や意思疏通をきめ細かく行い、学校と家庭で連携した教育を推進する。
イ PTA 活動の一層の活性化
※　保護者への連絡及び意思疎通の項目の肯定回答率、令和 10 年度 95%以上をめざす。（R５：91%・R６：93%・R７：87%）

５．教職員の「生徒に向き合う力」の強化
（１）教職員がチームで生徒と向き合う
ア 教職員の教育力を伸ばすための組織的な計画の策定による職員研修等の実施
イ 教職員の働き方改革を実現し、生徒と向き合うゆとりを確保する
※　教職員向け学校教育自己診断の全項目について肯定回答率、令和 10 年度 90%以上をめざす。（R５：３/10 項目　・R６：５/10 項目・R７：３/11 項目）

府立茨木西高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

3　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R７年度値］	自己評価
１　確かな学力	**(1) 生徒の学習支援** ・授業規律の徹底 ・学習支援体制の構築 ・外部模試の校内実施 ・自学自習の環境整備及び運用 **(2) 英語教育の充実** ・英語運用能力の育成 **(3) 授業の質の向上** ・教職員が切磋琢磨できる環境づくり ・「主体的・対話的で深い学び」の推進 ・ICT を活用した授業の深化	**(1) 生徒の学習支援** ・授業規律の徹底による学力保障 ・長期休業中の講習会による学習支援 ・外部模試による客観的な自己分析 ・自習スペース及び質問コーナーの活用推進 **(2) 英語教育の充実** ・英語４技能習得に向けた取組み **(3) 授業の質の向上** ・相互授業見学の活性化による授業力の向上 ・「主体的・対話的で深い学び」の研修や授業見学の実施 ・１人１台端末を効果的に活用した授業展開	**(1) 生徒の学習支援** ・授業規律を守る生徒割合 90%以上を維持[95%] ・長期休業中の講習会への参加人数のべ 100 名以上［183 名］ ・外部模試参加者数のべ 150 名以上［200 名］ ・自習スペース利用数のべ 300 名以上［397 名］ **(2) 英語教育の充実** ・NET を活用したスピーキングテストを年２回以上実施［5回］ **(3) 授業の質の向上** ・学校教育自己診断（生徒）「他の先生が授業見学にくる」肯定回答率 70%以上［66%］ ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組む教職員の割合 90%以上維持［85%］ ・ 学校教育自己診断（生徒）「学校は生徒に配布しているタブレット端末を効果的に活用している」肯定回答率 90%以上維持[95%]	
２　社会を切り拓く力	**(1) キャリア教育の推進** ・自己の進路決定に対する早期の動機づけ ・外部機関・人材との連携 ・希望する進路の実現	**(1) キャリア教育の推進** ・早期の動機づけのため、保護者に進路スケジュール等の情報共有 ・外部人材と連携した分野別進路説明会によるキャリア教育の実施 ・進路実現に向けた様々な支援強化	**(1) キャリア教育の推進** ・学校教育自己診断（保護者）「適切な進路指導」肯定回答率 80%以上[73%] ・卒業生等による分野別進路説明会アンケート肯定回答率 90%以上［67%］ ・３年生４月時点での進路希望の実現率 90%以上[93%] ・３年生卒業時の進路満足度 90%以上[89%] ・産近甲龍大和大合格者数 10 人［13 名］	
３　自律する力	**(1) 自律を促す教育活動** ・基本的生活習慣の確立 ・規範意識の向上 **(2) 安全安心な学校づくり** ・情報モラルの育成 ・いじめの防止 ・教育相談・支援教育の充実	**(1) 自律を促す教育活動** ・遅刻指導の徹底 ・生活指導方針を生徒及び保護者に周知 **(2) 安全安心な学校づくり** ・情報を発信する際に必要な資質・能力の育成 ・いじめの早期発見や対処に関する教職員の理解の深化 ・様々な課題を抱える生徒に向けた SC 等を活用した支援体制の構築	**(1) 自律を促す教育活動** ・遅刻者数の前年比減少［3,782 人］ ・「生指だより」を年５回配信。学校教育自己診断（保護者）「生徒指導の方針に共感」肯定回答率 80%以上[５回、78%] **(2) 安全安心な学校づくり** ・「ネットトラブルの対応に関する講演会」の肯定回答率 95%以上［87%］ ・学校教育自己診断（生徒）「命の大切さ、社会のルール」に係るアンケートの肯定回答率 90%以上維持[94%] ・学校教育自己診断（生徒）「いじめについて真剣に対応してくれる」の肯定回答率 85%以上維持[96%] ・学校教育自己診断（生徒）「悩みがあるときに相談したいと思う先生がいる」の肯定回答率 75%以上維持[76%]	

府立茨木西高等学校

	・交通安全指導の徹底	・入学時等の交通安全指導及び保護者・地域・警察等と連携した定期的な通学安全指導の継続 ・Safety Bicycle 推進校として、生徒の自主的な取組を支援と、校外への発信	・登下校時の事故数 10 件以下［23 件］ ・保護者・地域・警察等と連携した通学安全指導を年５回実施［５回］ ・自転車のマナーや安全に関する意識の向上。【新規】	
４ つながる力	**（1）HR 活動・生徒会活動・部活動の活性化** ・HR 活動の活性化 ・生徒会活動の活性化 ・部活動の活性化 ・グローバル社会に対応できる人材の育成 **（2）中学校、地域との連携の充実** ・中高連携の強化 ・地域連携の強化 **（3）家庭との連携の強化** ・保護者との連携の強化	**（1）HR 活動・生徒会活動・部活動の活性化** ・計画的な LHR の実施 ・生徒会行事の見直し及び新しい取組みの立案 ・顧問配置の見直しと外部人材の有効活用による部活動の指導・運営体制の再構築 ・オーストラリア姉妹校の生徒受け入れ及びオンライン交流の実施 **（2）小中及び地域との連携強化** ・地元３中学校との連絡会や連携事業の実施 ・地域行事等への参加 **（3）保護者との連携強化** ・メール配信等を通じた保護者へのきめ細やかな情報提供	**（1）HR 活動・生徒会・部活動の活性化** ・３学年の LHR 計画を、首席を中心に企画・調整し、学校教育自己診断（教職員）「学校行事が魅力ある」の肯定回答率 90%以上［78%］。 ・学校教育自己診断（生徒）の生徒会行事における満足度 90%以上維持[91%] ・部活動加入率 70%以上［67%］ ・オーストラリア姉妹校を夏季休業中に訪問、海外教育機関とのオンライン交流の実施５回以上［４回］ **（2）小中及び地域との連携強化** ・地元３中連絡会３回、出前授業等５校実施［連絡会３回、出前授業等３校］ ・地域行事等へのボランティア参加生徒数 100 名以上［117 名］ **（3）保護者との連携強化** ・学校教育自己診断（保護者）「家庭連絡や意思疎通をきめ細かく」肯定回答率 95％以上[87%]	
５ 生徒に向き合う力	**（1）チームで生徒と向き合う** ・生徒指導の充実 ・支援教育体制の構築 ・人権を尊重する教育の推進 ・管理職・ミドルリーダーの育成 ・教職員の働き方改革	**（1）チームで生徒と向き合う** ・生徒との信頼関係に基づく、教職員の一致協力した生徒指導 ・SC や関係機関と連携した支援体制の構築 ・人権道徳推進委員会による講演会や教職員研修の充実 ・初任期からミドルリーダー、次代の管理職までの系統的な育成 ・部活動方針を遵守し、部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。	**（1）チームで生徒と向き合う** ・学校教育自己診断（教職員）「カウンセリングマインドを取り入れた指導」肯定回答率 90%以上維持［90%］ ・外部関連機関との合同ケース会議の開催３回以上［１回］ ・学校教育自己診断（保護者）「豊かな心や人権感覚を持ち、自分の生き方を考える生徒を育てようとしている」肯定回答率 80%以上維持[64%] ・管理職及び分掌長・委員長にミドルリーダーを３名登用［３名］ ・年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにする。［７名］	